

第2回訪問（4月14～17日）

訪問地：宮城県仙台市、気仙沼市、岩手県陸前高田市、大船渡市、釜石市  
支援聖書：聖書500冊、新約聖書300冊、絵本聖書100冊、マンガ聖書10冊 他  
支援物資：食料、衛生用品、食品用ラップ、洗剤、文具、玩具、幼児用毛布 他

地震発生から更に2週間が経ち、現地との連絡も取りやすくなったように感じます。あらかじめ訪問予定地の教会にヒアリングし、必要を伺ってから聖書や物資を準備することが出来ました。

14日に東京を出発、気仙沼市から30キロほど内陸の岩手県一関市に宿をとり、15日に気仙沼に入りました。お訪ねした日本バプテスト同盟気仙沼教会は津波の被害をまぬかれた教会堂に支援物資が運び込まれ、被災された方々が必要な物資を受け取りに来られていました。津波で全部なくなったんです」とおっしゃる方々が沢山おられ、聖書のほか、お持ちした支援物資は教会堂に並べるそばからなくなっていきました。その後、海岸線を北上。陸前高田の惨状はニュースでも特に報じられていますが、「町が壊滅した」という言葉を痛感させる光景でした。市内唯一といわれる単立の教会をお訪ねしたあと、大船渡へ。こちらではカトリック大船渡教会と日本基督教団大船渡教会をお訪ねしました。日本基督教団大船渡教会は気仙沼のパプテスト教会と同様、支援物資の基地になっていました。どちらの教会も町の高台にあって津波の直接の被害をまぬかれ、「岩の上の教会」を思い起こされました。この日は釜石まで移動。ボランティアさんたちの宿泊所となっているカトリック釜石教会に泊めていただき、全国から集まったボランティアさんとも交わりの時をいただくことが出来ました。

16日は聖公会釜石神愛教会、日本基督教団新生釜石教会をお訪ねしました。新生釜石教会は1階に津波の被害を受け、ボランティアさんの助けも借りて瓦礫が取り除かれていましたが、その爪あとが生々しく残っていました。自らも被災した教会として、地域と共に復興しようという意思を強く持っておられました。

地震発生からひと月あまりが経ち、特に被害が甚大だった地域にも物流が回復しつつあり、物資不足は改善されてきている印象を受けました。一方で先の見えない中を必死に生活してきた人々の疲弊は顕著になっており、牧師先生はじめ教会で地域のための支援を行ってきた方々にも深い疲労の色が見てきています。お届けした物資が喜ばれる様子を目にしながらも、本当の意味では物資では人を救えないのだと実感させられました。一方で、聖書の必要は日に日に増しており、日本聖書協会のオフィスにも毎日要請の連絡が入っています。長い復興への戦いの中で、一人でも多くの方がみことばに希望を見出し、本当の救いを得られますように祈りつつ、支援を続けていきたいと思っております。皆様のお祈りとご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



日本バプテスト気仙沼教会にて



陸前高田市内にて



日本基督教団大船渡教会にて

村谷正人師はじめ教会員の皆様と